

長南 雄太
(安全農産物生産学コース4年)

私は鶴岡市に実家があり、両親は食肉販売店を営んでいます。また、両親は地域のイベントに関わる等し、様々な地域貢献も行っています。そのような環境の中で育ってきた私は、自分の進路を真剣に考え始めた時に「自分も両親のように多くの人に美味しい食肉を届けたい」、「家業を継いで大好きな地元鶴岡の活性化に貢献したい」という夢を抱きました。そのため、地元にある山形大学農学部で、生産現場から消費者のもとへ届くまでの「食」について考え、学び、また、大学生の立場から出来る地元貢献をしていきたいと思いい、受験しました。

農畜産物の生産に関わる基礎的な知識・技術・考え方等について学びました。現在私は、特に将来の夢が「町のお肉屋さん」ということもあり、その生産元である「畜産」について非常に興味を持っていて、畜産分野において「家畜の管理」や「飼料」、「生産された肉の美味しさ」等について学び、研究しています。畜産分野に配属されてからは、家畜を扱った研究や実験室内での実験等を行いながら、ウシ・ブタ・ニワトリ・ヤギ・ヒツジ等を世



後列右から4人目が筆者

話し、「生産現場の大変さ」も体験し学ぶことが出来ました。自分たちで出荷や屠畜を行い、調理し食することで「命をいただく」ことの有りがたさを学び、考えることが出来ました。実験や研究を積み重ねていくことの重要性、他の命をいただいて自分が命をつないでいること、生産現場の大変さ、そういった事を学ぶことができた大学生活であり、それは将来、家業を継ぐ私にとって非常に有意義な経験でもあり、知識・学問だけでなく、多くのことを現場を通して経験し感じ、考えることが出来たと思っています。

地域貢献という点では、地元の大学に入ったからこそ出来ることをしたいと思いい、取り組んできました。2年生までは講義等の勉学についていくことで精いっぱいだったため、活動範囲が限定的でしたが、3年生になり研究室に配属され、自分の時間が持てるようになってからは、例えば、町の行事やお祭りでの出店やボランティア、お手伝い等に参加し、大学内や地元の方等から声をかけて頂いた時には、「今自分が出来る事で地域に貢献したい」という思いで取り組んできました。自分の育った地元への恩返しと共に、日頃、多くの人から助けてもらいながら生きていることへの感謝を忘れず、自分が出れる事を精一杯やるという思いで

生活しています。

私は卒業後、県外で修業し将来は鶴岡市に戻って家業を受け継いでいきます。その時、自分の立場から地元へ貢献出来るように、まずは残りの大学生活を更に意味あるものにし、経験をしっかりと吸収して、将来、家業の発展、地元鶴岡の活性化へ生かしていきたいです。

そして、今だからこそ、大学に来たからこそ出来ることに精一杯取り組み、出会えた人たちが支えて下さっている方々に感謝していきたいと思っています。



山形大学に入学して...

春田 魁登

(安全農産物生産学コース3年)

「せっかく大学に行くなら遠くに行きたい」、これが、僕が山形大学農学部に入學しようと思った大きな理由でした。僕は鹿児島県薩摩川内市という山

形県から約1700km離れた地域の出身です。僕は生まれてからあまり九州以北に行ったことがなく本州へ行ったことは片手で数える程度でした。なので、せっかく大学に行くのなら遠くに行つてみたいと思うようになりました。

センター試験が終了した後、パソコンやインターネットなどを利用して様々な大学を調べました。その中で一番遠く、かつ自分のやりたい研究が出来そうな大学が山形大学でした。

山形大学農学部に入學してから1年目は一人暮らしや大学生生活、慣れない環境への適応などに精一杯でした。鹿児島では考えられない量の積雪・降雪や寒さなど九州にいたままだったら体験できなかったと思われることを経験できました。また、高校までとは違う大学での授業様式など戸惑うことが多々ありました。これらに慣れ、1年目の終わりにはこのコースに所属するかを決定しました。僕は安全農産物生産学コースを希望し、希望通りのコースに所属できました。

2年目では鶴岡に移り、より専門的な知識を身につけたり、実際に田植えや植物の病気の同定などを行いました。実際に高坂の農場に向いて田植えやリンゴの摘花などの作業を行ったり、実験室を使って実験を行ったりすることが多くなりました。

これらにより忙しくなると同時に、田植えなどの作業や実験などを通じて自分が農学部に入學したということを実感しました。

2年生の終わりには研究室への配属が行われました。僕はかねてから希望していた動物生態学研究室分野に入ることが出来ました。

3年生になり、前期では研究室ごとに研究を行い、発表を行うフィールドサイエンスIIがありました。僕たちはアブラムシを増やす方法についての研究を行いました。このフィールドサイエンスIIで初めて自分たちで研究計画を立て、実験、考察を行うという一連の作業を行いました。色々な困難がありました。最終的には良い研究結果が得られ、また良い発表ができたと思います。

また、3年生になり、様々な国からの留学生の方と話す機会が得られ、交流を通じて色々な知識を得ることが出来ました。

この3年間の山形大学での生活を通して、僕はたくさんの方から経験を得ることが出来ました。実習やフィールドサイエンスIIなど大変なものも多かったですが、これらの経験はほかの大学では決して体験することが出来ないものでした。これからも山形大学でしか体験できないことを通じて知識、人間性を成長させていきたいです。

留学生の声

Nguyen Thanh Tung

農学研究科1年(佐々木研究室)
出身 ベトナム



SELF INTRODUCTION

My full name is NGUYEN THANH TUNG and I am from Vietnam. In my country, we use first names to address one another, so I am usually called TUNG. I am currently a first year student in the masters research program at the Yamagata University Faculty of Agriculture, majoring in Edaphology.

In 2014, thanks to the MEXT scholarship from the Japanese Government, I came to Tsuruoka in the beginning of October and joined the Edaphology Laboratory as a research student. During the first 6 months (from October 2014 to April 2015) under the supervision of Assoc Prof. Dr Yuka SASAKI, I gradually learned and accumulated important experiments in the laboratory, and prepared for the master course entrance examination which was organized in January. After passing this examination I started my master course and research in April this year. In my research, I evaluate the long term effects of cow dung compost and rice straw application on rice paddy soil fertility in Mamurogawa, Mogami, Yamagata. I hope that I can achieve some good results from this research and apply them to rice production in my country where the use of chemical fertilizers has increased while organic methods are made light of. At present, my research is still going well and is showing some good results.

It has been almost one year since I came to Tsuruoka and everything has been going well in both my work and daily life. I really like the researching environment in the laboratory. The professors and other laboratory members are very friendly and enthusiastic. They seem to be my second family, giving me crucial support and guidance that have helped me familiarise quickly with the laboratory equipment and tasks. In my laboratory, cooperation or group work has proven to be a key point of my education. All members need to support each other to conduct research. By doing this junior students can learn and accumulate essential skills and experience from senior ones. At the same time we all know detailed information about the purpose, methods and results of our own research. I am also interested in seminar activities which are conducted four times per year for each student. Through this activity students can improve their skills of selecting papers, summarizing important points related to their research and presenting in front of others with limited time. I, myself, realized that I have become more confident after each seminar. In addition to the seminar we had four progress reports, organized after each cycle of seminars. Thanks to these activities, I have a much greater grasp on how to write my graduation thesis.

When I am not researching in the laboratory, I am enjoying my life here. Tsuruoka is a very beautiful place surrounded by nature with mountains and sea. I felt so familiar with this place because in some ways it is similar to my hometown for its peace and nature. The winter was the only difficulty for these first days. It was much colder than my home's winter with heavy snow and strong wind. Snow was very beautiful especially seeing snow fall for the first time. However, it turned out so great when spring came. For me, it is the best time in the year. Spring came with cool weather and the beauty of various flowers, especially cherry blossoms, and the green of new shoots representing the starting of life. I enjoyed *hanami* almost every day on the way to school through Tsuruoka Park. It was so wonderful. Summer is an enjoyable time for everyone with various types of festival. The Akagawa fireworks festival is the biggest and most beautiful festival I have ever experienced. Autumn is short but very comfortable with sunny days and cold nights. Shonai foods and culture are plentiful and varied. I did enjoy many foods (Ramen and cold Udon are two of my favorites). Vegetables and fruits are very fresh with typical varieties for each season. Persimmon, apple and pear in the autumn and winter. Cherry, melon, watermelon, grape and dadacha soybean in the summer. It makes my daily life so healthy and refreshing.

Together with other laboratory members I had the chance to understand and experience Japanese culture and foods through many activities. In the last year we went to parties with many *osake*, ate long sushi, enjoyed codfish soup, and went to the *hanami* festival. Another interesting part of life here is my Japanese class at the International Center (named Dewa Shonai Kokusaimura). I have participated in this class since March, 2014. In this place I not only can study Japanese language but also history, culture and cuisine. Equally important I made many friends from different countries there. I feel I am such a lucky man.

Once again I would like to say thank you to the MEXT scholarship, Yamagata University and my Professor for giving me the chance to come to Tsuruoka where I can enjoy living each day with huge variety of interesting things.

支部報告

北海道支部(月山会)

月山会会長

菅原 義昭

(昭和40年農業工学科卒)

去る9月5日(土) 16時から札幌市内のKKRホテル札幌において北海道支部(月山会)総会が開催され、22名の会員の参加で盛会のうちに終了しましたので報告致します。

開会に先立ち、長年、会に参加頂き今年6月に逝去された故佐藤辰四郎さん(昭和38年卒)のご冥福をいのり参加者全員で黙祷を行いました。

その後、菅原会長のあいさつ、昭和32年卒伊達紀夫さんの乾杯の音頭で懇親会がスタートしました。懇親会の中で、毎年、数名の会員に近況報告をしていただいております。今回は、平成27年春の叙勲で受



▲第26回 月山会(北海道支部)平成27年9月5日(土) 於 KKRホテル札幌

賞(13頁参照)された昭和41年卒相馬敏夫さんから受賞の経緯や伝達式の様子などを報告して頂きました。また、今回初めて参加して頂いた昭和58年卒安久津久さん、昭和60年卒中村忠三さんから自己紹介を兼ねて近況を報告、来年の総会にもぜひ出席したいとの言葉もいただきました。最後に恒例の逍遙歌の合唱を行い、平成17年卒三浦聖さんの締め乾杯で会をお開きとしました。

昨年、25周年の節目を記念して農学部構内に植樹をし、今年から30周年を目指し新しい1年を歩み始めたところです。今後とも鶴窓会の皆様には宜しく願います。

(文責：磯部 勝彦(農工科52年卒))

村山支部

支部長

栗野 省三

(昭和44年農芸化学科卒)

支部の総会が、10月3日に山形市内の国際ホテルで、開催されました。

出席者数は、16名と少なかつたが、内容の濃い総会となりました。

総会前に、山形県森林研究研修センターの鈴木健治所長(昭和54年林学科卒)より講演を頂きました。

講演内容は、今県を上げて取り組んでいる「やまがた森林ノミクス」についてでした。

具体的には、①山形県の森林・林業・木材産業の現状と課題②大型木材加工施設の新設③高性能林業機械の導入と担い手対策④山形県農業大学校への林業関係学科の新設について、非常にわかり易く、多くの方に聞いて頂きたい内容でした。

総会では、支部長挨拶と本部の来賓として齋藤博行副会長より、本部活動の内容と山大校友会について報告がありました。

議事では、総会参加者を増やすが課題になり、如何にして60歳以下の、現役世代の参加数の増加を図るかが課題でした。



▲村山支部総会 平成27年10月3日(土) 於 山形国際ホテル

役員改選では、支部長に阿部芳幸さん、副支部長に大内崇さん、佐藤孝宣さんが選ばれ、幹事に新しく安孫子道雄さん、鈴木健治さん、石川一夫さん加入して頂き、総会参加者の増加への布陣としました。

その後楽しい宴会となりました。

庄内支部

第二回「農業者の会」開催

芳賀 修一

(昭和46年農学科卒)

本年2月28日、三川町「田田」において泊で、佐藤辰一鶴窓会会長、大学関係者、農協職員やOB、農業従事者等14名の参加で開催されました。

内容は農学部の現状、鶴窓会事業の報告、参加者の情報交換と懇親でした。

今回のテーマは、新規就農者の課題でした。情報交換では各自の実践例や課題、今後の会のあり方などを話し合い有意義な会となりました。

第一回は、平成25年2月に地元庄内で農業に関係する同窓生の集まりが必要との思いで開催しました。

当初は任意の活動でしたが、今回から鶴窓会庄内支部の行事として開催することになり、定着化に向かう事が出来ました。

今後の課題として、農業者の参加が少ない事と農業関係者のまとまった名簿はなく、実態把握が必要な事です。

この会が今後農学部卒業生が集落や組織を離れ、個人の立場で自由闊達に農業を語りあえる場として発展出来ればと思います。

第3回の開催は未定ですが今まで案内が無く、今後参加してみたいと思う方の連絡を是非お願いします。



▲庄内支部「農業者の会」平成27年2月28日(土) 於 三川町「田田」



▲村上龍男氏の講演会の開催

去る11月12日(木)に鶴窓会庄内支部主催で加茂水族館前館長の村上龍男氏(本学部38年卒)の講演会が「夕日を釣りあげた男」と題して100余名の出席者のもとに盛況に開催されました。世界一のクラゲ水族館につくり上げるまでの並々ならぬ努力とユーモアを含んだお話に魅了された時間でした。

置賜支部

事務局長 石川 庄一

(昭和52年農学科卒)

本支部は、総会を隔年開催としており、今年は9月5日に南陽市のむつみ荘で開催しました。

総会に先立ち、名誉支部長の森好郎さんが昨年10月、山形大学名誉教授の塚原初男さんが今年の6月に急逝されたため平成26・27年に亡くなられた5名の方のご冥福をお祈りしました。

総会には鶴窓会本部から佐藤辰二会長をお迎えし、「農学部及び鶴窓会の現状と課題について」のご講話をいただきました。

また、遠藤敬治氏(昭和48年卒)から「飯豊町のまちづくりについてのプレゼンテーション」の紹介がありました。具体的な内容は、本号の「会員の声」をご覧くださいと思います。

総会出席者が少なかつたにも係らず、懇親会では懐かしい鶴岡での学生生活の話題で盛り上がりました。

総会のほかに幹事会は毎年1月下旬に寒鰯を囲んで開催しており、支部の主な事業として、恒例の寒鰯幹事会、役員会、年賀状挨拶を行っております。

役員体制は、支部長に小川洋さん(昭和43年卒)、副支部長に佐藤誠一郎さん(昭和55年卒)、事務局長に石川、事務局員に二宮弘明さん(平成元年卒)、藤田淳志さん(平成11年卒)、近野太哉さん(平成20年卒)が選出されました。



▲置賜支部総会 平成27年9月5日(土) 於 南陽市むつみ荘

今年には町村合併60周年の記念行事が置賜地方でも開催されておりました。地方創成を目指して頑張っているようです。

川西町では、「国際タリアサミット・イン川西」が9月に開催されタリアの原産地のメキシコ大使館の担当官や交流のあるブラジルスザノ市の市長も出席され大盛況となりました。

また、南陽市は全国初の大規模木造耐火ホールの南陽市文化会館がオープンしました。11月には宝塚歌劇宙組全国ツアー公演が催され大賑わいとなりました。

山形県内の高速道路網も着実に整備が進んでおります。是非、置賜地方に足を運びください。